

4.28 東京シンポジウム

サンフランシスコ講和条約60+1年 ～オスプレイ普天間配備、「尖閣問題」を問い直す



2012年12月23日怒りの御万人(うまんちゅ)大行動ー普天間基地大山ゲート前

昨年10月に欠陥機MVオスプレイ12機が強行配備された沖縄では、日米で決めたはずのルールさえ無視した飛行訓練が昼夜を問わず連日繰り返され、米兵による事件事故が続発しています。高江ではオスプレイパッド建設工事が強行される一方で、①普天間への12機の追加配備(本年7月まで)②嘉手納へのCVオスプレイ配備計画(2014～16年)などが次々と明らかになりました。

1月27-28日、沖縄県下41市町村長と議会代表約140人による東京行動が展開され、オスプレイ配備撤回と普天間基地閉鎖・撤去、県内移設断念を求める「建白書」(裏面)が安倍総理に提出されました。しかし安倍政権はこれらの切実な要求を踏みにじり、2月23日の日米首脳会談で普天間基地の辺野古移設を再確認し、3月には新基地建設のための埋立申請という暴挙に出ようとしています。

安倍「九条改憲」政権発足に見られる日本国内情勢の右旋回と戦争動員に向かって強化される「日米同盟」。これにどう立ち向かうのか。沖縄における「日本問題」という苛酷な現実を見据えた二つの視点ー戦後史を振り返る視点と東アジアの近代史に学ぶ視点が重要だと思います。それは、「日米安保」による抑圧の凝縮点としての沖縄の位置と、東アジアの戦後政治秩序の矛盾を象徴する「尖閣問題」を深く掘り下げることであり、東アジア人民連帯と平和のための政治思想的課題を明確にすることです。それはまた、「領土問題」「国家間関係と外交」という観点を突破する、生活者・住民の自己決定権のありかたを探ることであります。

以上の問題意識から、私たちは、実行委員会を立ち上げ、4月東京シンポジウムを企画しました。5月那覇シンポジウムも準備しています。多くの方の参加を呼びかけます。

司会 二木啓孝さん(ジャーナリスト)

提起 発言Ⅰ：八重山の波濤

大田静男さん(八重山郷土史家)

発言Ⅱ：オスプレイ撤去の闘いから

山城博治さん(沖縄平和運動センター)

発言Ⅲ：米・東アジア関係の中の日本国家

武藤一羊さん(ピープルズ・プラン研究所)

日時 2013年4月28日(日) 18時-21時

会場 文京区民センター3A(Tel03-3814-6731)

資料代 500円

主催 2013/4月東京・5月那覇シンポ実行委員会

連絡 (株)情況出版(Tel03-5213-3238)

